

## 2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年 1月 31日

## I 概要

実践団体・担当者名	高知県立高知東高等学校（担当者：谷内 康浩・小川 晴美）	
連絡先	高知県高知市一宮徳谷23-1 電話088（845）5751	
プランタイトル	南海地震に備えて～ より行動できる人になろう～	
目的	生徒による実践的な様々な取り組みを進める中で、地震に対する知識だけでなく、地震への対応能力を育成する。また、教職員も実践する中で防災教育に対する理解を含め、他校や地域においてもリーダー的な役割が果たせるような力量の獲得をめざす。	
プランの概略	<p>○講座「地震列島と私たち」開講（4月～通年、週2時間）</p> <p>○昨年度の舞子高校との交流や語り部の言葉、南海地震についてのインタビュー等をまとめた映像を放送部が作成し、NHK杯全国高校放送コンテストに応募（高知県大会でテレビドキュメント部門第2位、全国大会に出場）（6月、11月5日の文化部発表会で全校上映）</p> <p>○救急法・蘇生法校内研修（教職員）（7月15日）</p> <p>○「徳島県立防災センター」での体験研修（7月20日）</p> <p>○兵庫県と高知県の高校生による防災ワークショップ&amp;フィールドワーク（兵庫県立舞子高校の生徒を招いての交流学習 8月2日・3日）</p> <p>○体育祭での競技種目「バケツリレー」（10月14日）</p> <p>○地震防災プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震防災に関する講演（1・3年生対象 10月21日）</li> <li>・地震防災に関する授業①「自分の寝室をチェックしよう！」（1年生対象 11月1日）</li> <li>・地震防災に関する授業②「地震防災体験」（1年生対象 11月8日）</li> </ul> <p>○スマトラ沖地震 スリランカでの被害パネル展および津波の高さ表示板設置（11月1日～10日）</p> <p>○地震防災に関する校内研修～クロスロードの手法を用いて～（教職員対象 11月30日）</p> <p>○防災避難誘導訓練（全校 12月2日）</p> <p>○救急法講習会（1年生対象・看護科3年生が実施 2月1日）</p> <p>○防災教育 取り組み事例集の作成（通年）</p>	
プランの対象と参加人数	本校生徒全員（780名）および教職員（90名）	
実施日時	通年	
主な実施場所	高知県立高知東高等学校	
連携した団体名、	連携団体の有無	有り

	連携した団体名	○高知県危機管理課 ○高知県消防学校 ○高知市消防局 ○高知市役所防災対策課 ○高知大学理学部自然環境科学科 ○高知市立一宮中学校・一宮小学校・一宮東小学校 ○一宮徳谷町内会 ○兵庫県立舞子高等学校 ○高知県立高知小津高等学校（SSH） ○高知県観光コンベンション協会 ○高知県高等学校教育研究会理科部会
	連携したきっかけ・理由	○専門的知識を活用するため。
	連携団体へのアプローチ方法	各プランごとに記載
	連携団体との打合せ回数	各プランごとに記載
	連携団体との役割分担	各プランごとに記載

## Ⅱ プラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	各プランごとに記載
	主なメンバーの役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2005年1月～5月
	立案時間	各プランごとに記載
	上記のうち打合せ回数	各プランごとに記載
プラン立案で注意を払った点 工夫した点	○初めての系統的な取り組みであり、各取り組みがその場限りではなく、有機的に結びついたものとなるように注意した。	

プラン立案で 苦労した点	
-----------------	--

## Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	各プランごとに記載
	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名） を基本に、各プロジェクトごとに記載
準備に要した日 数・時間	準備期間	各プランごとに記載
	準備総時間	各プランごとに記載
	上記の内打合せ回数	各プランごとに記載
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	○学校周辺の小中学校 ・一宮小学校 ・一宮東小学校 ・一宮中学校
	どのように働きかけたか	○行事の案内
	結果	
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	○学校周辺への町内会 ・一宮徳谷地区
	どのように働きかけたか	○行事の案内
	結果	
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	○高知東高等学校PTA、保護者
	どのように働きかけたか	○PTA会報への掲載
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	各プランごとに記載
	入手先・入手方法	各プランごとに記載

	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	各プランごとに記載
参加者の募集	募集方法	主に校内の生徒・教職員対象
	募集期間	各プランごとに記載
	参加予想人数	本校生徒全員（780名）および教職員（90名）
	実際の参加人数	各プランごとに記載
	募集方法の成功点	各プランごとに記載
	募集方法の失敗点	各プランごとに記載
準備で苦労した点・工夫した点		各プランごとに記載

#### Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月	○2005年度防災教育チャレンジプラン応募に向けて立案		
2005 1月	○防災教育チャレンジプラン応募申請		
2月			
3月			
4月			
5月	○5/31 第1回地震防災プロジェクト委員会で日程確認		
6月		○6/28 第2回地震防災プロジェクト委員会	
7月		○7/26 第3回地震防災プロジェクト委員会	○7/15 救急法・蘇生法校内研修（教職員）

			○7/20「徳島県立防災センター」での体験研修
8月			○8/2・3 兵庫県立舞子高校の生徒を招いての交流学習
9月			
10月		○10/7 第4回地震防災プロジェクト委員会 ○10/24 第5回地震防災プロジェクト委員会	○10/14 体育祭での競技種目「バケツリレー」 ○10/21 地震防災に関する講演（1・3年生対象）
11月		○11/15 第6回地震防災プロジェクト委員会	○11/1・10 スマトラ沖地震スリランカでの被害パネル展および津波の高さ表示板設置 ○11/1 地震防災に関する授業①「自分の寝室を見直してみよう」（1年生対象） ○11/8 地震防災に関する授業②「地震防災体験」（1年生対象） ○11/30 地震防災に関する校内研修～クロスロードの手法を用いて～（教職員）
12月		○12/22 第7回地震防災プロジェクト委員会	○12/2 防災避難誘導訓練
2006 1月		○1/20 第8回地震防災プロジェクト委員会	
2月			○2/1 救急法講習会（1年生対象・看護科3年生が実施）

V実践の詳細 【A. 素材】（メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45分			
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを 45 分を 1 コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】（継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				



## VI 実践後

参加者へのアンケート結果	各プランごとに記載	
成果として得たこと	<p>○校内の教職員組織の中に「地震防災プロジェクト委員会」を設置し、組織的に防災教育の取り組みや、災害時の対応について具体的に論議することができた。</p> <p>○生徒・教職員の地震防災に対する意識が高まるとともに、その具体化が進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館に地震防災関連のコーナーの設置</li> <li>・理科室の棚のガラスの飛散防止のためのテープの貼付</li> <li>・各校舎に担架用の竹棒の設置</li> </ul> <p>○総合学科の特性や看護科を併設する利点を活かした取り組みができた。</p> <p>○今年度の取り組みを各校に拡げることができた。</p> <p>○来年度以降の基礎となる取り組みができた。</p>	
成果物	<p>（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。データがあればデータファイルを貼付して下さい。）</p> <p>○各プランごとに記載</p> <p>○その他の成果物</p> <p>「地震列島と私たち」を紹介した高知新聞記事、NHK放送コンテスト作品（DVD 8分）</p>	
広報方法	広報した先	報道各社（教育記者室）
	広報の方法	教育記者室への投げ込み・報道からの取材
	取材にきたマスコミ	<p>○テレビ（NHK・高知放送・テレビ高知・さんさんテレビ）</p> <p>○新聞社（高知新聞・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞）</p>
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	○テレビニュースおよび新聞で報道 報道されたものは、各プランごとに記載
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<p>○2004年度から生徒参加（意欲・関心のある生徒中心）ではじまった本校の防災教育であるが、今年度の防災教育チャレンジプランにより、学校で取り組める様々な実践を行うことができた。そのことにより、様々な課題が明らかとなり、改善点が見えてきたこと、生徒も教職員も、南海地震に対する防災意識が高まったことなどが成果としてあげられる。これらの実践を、県下の学校へ広め、お互いが知恵を出し合った取り組みのきっかけになればと思う。</p> <p>○多くの団体・個人と連携して取り組みができた。このことは、今後の取り組みに活かせる財産となった。防災は専門部分もあり、専門家（団体）に任せきりになる傾向があるが、学校の防災教育においては、教員が生徒の実態や学校の地理的条件などを加味して、専門家（団体）と綿密な打ち合わせをするなどのコーディネート役を果たすとともに、学ぶ姿勢が大切であることが明らかになった。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	○引き続き、今年度の成果と課題を検証しながら、南海地震に備えて「地震防災プロジェクト委員会」を中心に、取り組みをすすめます。

	是非実施してみたい 取り組み	
自由記述	<p>○今年度より講座「地震列島と私たち」を開講したが、それと並行して「防災教育チャレンジプラン」として、意識的に防災教育の取り組みが実施できたことに感謝します。そのことで、下記に示す様々な課題が明らかになりました。</p> <p>○今後、実施・検討すべきこと（すぐできること、中長期的にすべきこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間中の管理職・教職員・生徒の対応マニュアルの作成</li> <li>・学校外の行事（遠足・部活遠征等）の管理職・教職員・生徒の対応マニュアルの作成</li> <li>・勤務時間外の管理職・教職員・生徒の対応マニュアルの作成</li> <li>・生徒・教職員および地域の避難所としての開設準備・運営支援のマニュアルの作成および訓練</li> <li>・保護者への引き渡しに関する要項の作成および訓練</li> <li>・生徒の心理的ケアに関する研修</li> </ul> <p>※以上は、できるだけ原則を重視し、単純化したものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時にリーダーとなる生徒の育成 「地震列島と私たち」の充実 生徒会各種委員会の位置づけ （例）保健環境委員会 交通安全委員会→防災安全委員会に改称</li> </ul> <p>※教職員の力だけでは、災害後の事態に対応しきれず、また生徒の不安を押さえきれない。一定の知識と行動力を持った生徒の育成が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のみによる図上訓練</li> <li>・校内への飲料水・食料の備蓄方法の検討、資機材の設置</li> <li>・校舎ごと or 各階ごと or 各教室への救急用具の配置 救急セット（医薬品、包帯、三角巾）、竹棒2本（担架用）、ロープ</li> <li>・地震への設備面での備え（窓ガラス、家具・パソコン等の固定など）</li> <li>・避難所体験</li> <li>・学校独自の防災技術習得の認定制度の創設の検討</li> <li>・地域との防災に関する話し合い</li> </ul> <p>○実質、本格的な防災教育の取り組みは今年度が最初であり、「自分の命を守る、他人の命を守る」ことが中心となったが、今後は、地域や他団体との連携を含め、「共助」に関しての取り組みを研究・充実させていきたい。</p> <p>○やらなければならないことはたくさんありますが、今後も「できることから」はじめるとともに、「チャレンジ」精神で創意・工夫しながら防災教育に取り組みたいと思います。</p>	